

令和元年度第2回青森市地方独立行政法人評価委員会 会議概要

- **開催日時** 令和元年7月26日(金) 13:30~15:00
- **開催場所** 本庁議会棟4階 第1委員会室
- **会議次第**
 - 1 開会
 - 2 公立大学法人青森公立大学平成30年度業務実績評価について
 - 3 公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間(終了時見込)業務実績評価について

- **出席委員** 若井委員長、藤本委員、内山委員
- **市出席者** 小川企画部長、横内企画部理事、舘山企画調整課長、棟方企画調整課主幹、木村企画調整課主査

■ 議事要旨

《1 開会》

○市：本日は、お忙しい中お集まり頂き誠にありがとうございます。それでは、定刻となりましたので、ただ今から令和元年度第2回青森市地方独立行政法人評価委員会を開会いたします。初めに、会議に先立ちまして、定足数の確認をいたします。本委員会につきましては、当委員会条例第5条第2項の規定により、委員の半数以上の出席が必要とされておりますが、全委員5名のうち、3名にご出席をいただいております、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

本日の会議は、次第に従い、案件1「公立大学法人青森公立大学平成30年度業務実績評価について」、案件2「公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間(終了時見込)業務実績評価について」委員の皆様にご審議いただくこととしております。

会議は、当委員会条例第5条第1項の規定に基づきまして、委員長が議長となり、会議の進行を行うこととなっております。それでは、若井委員長、よろしく願いいたします。

○委員長：それでは、委員の皆様のご協力をいただきながら、会議を進めて参ります。
案件1の、「公立大学法人青森公立大学平成30年度業務実績評価書」について、説明をお願いします。

○市：それでは、案件1「公立大学法人青森公立大学平成30年度業務実績評価」について説明させていただきます。説明は、青森市企画調整課木村がさせていただきます。よろしく願いいたします。お配りしております、資料1-1、公立大学法人青森公立大学の平成30年度業務実績評価についての資料をご覧ください。30年度の業務実績評価にあたりましては、評価方法としましては、「公立大学法人青森公立大学事業年度評価実施要領」に基づきまして、各委員の皆様から評価理由を明らかにしていただいたうえで、項目別評価として、それぞれ5段階評価に加えまして、記述式による全体評価を5名の委員全員に行っていただいたとこ

ろでございます。その結果につきましては、資料の中ほどからの評点数一覧となっております。評点数につきましては、項目ごとに平均値を出しまして、その数字に、平均に関して四捨五入をし、評価点数案としております。ただし、今回は、値としてはありませんでしたが、平均値が4.5以上5未満となった場合は、評価点数につきましては4点とすることとしております。この結果、中期計画に掲げる7つの項目すべてにおいて、計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるとなったものでございます。続きまして2ページをご覧ください。資料のほうは、お手数ですが、横の方に片付けていただければと思います。まず、資料全体についてご説明させていただきたいと思っております。委員の皆様からいただいた評価といたしまして、全体評価の1、総評につきましては2ページに、ページをお開きいただきまして、3ページには業務の実施状況について、さらにページをお開きいただきまして4ページには、組織、業務運営等に係る改善事項等について記載しております。以降、5ページから11ページまでにつきまして、7つの項目評価についての記載となっております。各ページの表中の左側の欄に記載しております内容が実際に委員の皆様からいただいた意見をそのまま記載しております。右側の欄に記載しております内容は、委員の皆様の見解に実績の数値などを追加して評価意見としたものや、また、各委員の皆様の評価として、同内容であると判断させていただいたものにつきましては、まとめて評価意見として整理しておるところでございます。それでは、2ページの方にお戻りいただければと思います。評価意見案につきまして、右側の欄について、しばらくの間読み上げさせていただきますので、委員の皆様におかれましては、ご確認のほどお願い申し上げます。

1 総評につきましてでございます。公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、青森市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、青森市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。こちらは、第2期中期目標の前文からの抜粋となっております。

第2期中期目標期間(平成27年度から令和2年度まで)の4年目となる平成30年度は、県内企業バスツアーの実施などの取組により、就職率が、目標値96.0%に対して、99.7%と平成29年度の99.3%をさらに上回っており、高い実績をあげていることは評価できる。

教育研究の質向上に関する多くの取組を実施し成果を上げていること、公開講座のケーブルテレビ放送やまちなカラボでの動画閲覧などにより研究成果の地域貢献が着実になされていると評価できる。「国内大学のGPAの算定及び活用に係る実態の把握に関する調査研究」及び大学基準協会による外部認証評価につきましては、これまでの公立大学の取組を評価したものでございましてので、いずれも終了時見込評価書へ記載として整理させていただいております。今後も、産学官の連携を一層推進することにより、青森市が掲げる施策の推進に貢献し、市民生活及び文化の向上への寄与に対し、より大きな成果を期待する。

よって、平成30年度の年度計画については、中期計画の達成に向けて、ほぼ計画どおりに実施したと評価できる。

3ページをお開きください。2業務の実施状況についてでございます。教育研究等の質の向上（教育、研究及び地域貢献）に関しては、アクティブラーニング室における授業が平成29年度の251コマから325コマへと増加しており、学生の主体的・能動的学習が実施されている。

戦略的研究助成事業制度において、学長が大学の教育研究上有意義と認めるものを対象とする「指名型」が新設されている。

公開講座のケーブルテレビ放送やまちなかラボで動画が閲覧できる環境が整備されている。

業務運営の改善及び効率化に関しては、職員の業績評価が試行されている。

経営・財務内容の改善及び効率化に関しては、外部研究費資金やその他の自己収入の獲得に向けた取組として、受験生確保のための高校訪問、オープンキャンパスの実施ほか、様々な媒体による情報発信が行われている。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供並びにその他の業務運営に関しては、安全管理に関して、避難訓練、AED講習会の実施などの防災対策に加え、不審者への対応に関する講習会などの防犯対策の強化が図られており、その他の事項についても着実に実施されている。業務の実施状況につきましては、大学からの実績報告書、および委員の方々からの評価意見を踏まえて実際に実施した実施状況としてその取組を記載しております。4ページをお開きください。3組織、業務運営等に係る改善事項等についてでございます。学生の受入に関して、大学院課程については、入学定員を変更するとともに、大学院改革を行っていくとしたところであるが、今後はその成果が現れるよう取組を行うことを求める。

職員を対象とする業績評価を試行したところであるが、その試行結果を踏まえて早期に本格的に実施することを求める。教員を対象とする人事評価の試行が実施されていないことから、一層の検討と取組を求める。

受託研究・受託事業等による外部研究資金については、引続き獲得に努めることを求める。

5ページをお開きください。項目別評価といたしまして、1教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）でございます。教育方法の改善に関して、アクティブラーニング室における授業が平成29年度の251コマから325コマへと大幅に増加しており、学生の主体的・能動的学習が推進されていると認められる。今後は、具体的な活動内容を意識し、さらなる学習方法の充実が図られることを期待する。

キャリア支援に関して、県内企業バスツアーの実施、首都圏等での就活拠点の確保等により、就職率が99.7%と平成29年度の99.3%を上回る実績となったことは評価できる。

県内就職率は38.7%と平成29年度の36.2%を上回ったものの、より一層の取組を期待する。

グローバル化への対応に関して、平成30年度は、アメリカへの留学の学生派

遣がなかったところであるが、グローバル化した現代社会で活躍する人材を育成していくためにも、多くの学生が海外での教育の機会の充実が図られるような取組を期待する。

6 ページをご覧ください。大学院課程については、入学定員を変更するとともに、大学院改革を行っていくとしたところであるが、今後はその成果が現れるよう取組を行うことを求める。

教育プログラムの検証・再編に関して、「大学院カリキュラムの検証及び改善を継続する」、学修環境の整備に関して、「学修環境に関する大学院生のニーズ調査を継続し、必要な改善を行う」という年度計画については、検証に留まらず具体的に取り組むことを求める。

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

7 ページをご覧ください。2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）でございます。研究内容に関して、戦略的研究助成事業制度において、学長が大学の教育研究上有意義と認めるものを対象とする「指名型」を新たに設けるなど、研究活動が推進されていると認められる。

研究成果に関して、公開講座をケーブルテレビを通じて放送するほか、公開講座の動画をまちなカラボで閲覧できる環境を整備するなど、研究成果の地域への還元がなされていると認められる。

研究実施体制等の整備に関して、教員サバティカル制度（長期研修制度）を、教員が利用しやすいよう制度改正を行い、運用されていることは評価できる。

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

8 ページをご覧ください。3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（地域貢献）でございます。研究成果の地域への還元に関して、地域貢献に係る研究費を促進するため、教員や地域連携センターの研究員に、地域貢献に関する研究活動費を配分し、地域貢献活動の推進を図ったことは評価できる。

地域の企業、NPO等との連携に関して、あおもりドローン利活用推進会議の事業運営協力などに際しては、大学の経営資源を多面的に活用して地域のドローン利用を加速させていくことが期待される。

県内との市町村との連携に関して、新たに鱒ヶ沢町と地域経済活性化、地域住民の生活環境の改善、人材育成に関する連携協定を締結しており、市町村との連携が推進されていると認められる。

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

9 ページをご覧ください。4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置でございます。広報活動の推進に関して、大学の特色や魅力・取組みを効果的に情報発信するために、提案プロポーザルの導入により、ホームページ等の充実を図ったことは評価できる。

人事の適正化に関して、職員の業績評価を青森市の制度に準拠して試行したことは評価できるが、その試行結果を踏まえて、早期に本格的に実施するよう求める。

教員の人事評価については、第2期中期計画期間内の試行の実施に向け、評価準や評価項目、評価手順等について検討段階にとどまっており、早期に試行実施され

るよう求める。全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

10ページをご覧ください。5経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置でございます。外部研究資金その他の自己収入の増加に関して、入学志願者増加による検定料の増加、受託研究・受託事業等による外部研究資金の獲得や様々な取組の成果として収入増加に結びついていることや、経費抑制への取組は評価できるが、引続き外部研究資金の獲得に努めることを求める。

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

下の段になりますが、6自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置でございます。平成29年度業務実績報告書において計画を十分に実施していない項目のフォローアップを行い、公表したほか、評価委員会からの評価結果を踏まえ提案事項等に適切に対応されていると認められる。

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

11ページをご覧ください。7その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置でございます。安全管理に関して、避難訓練、AED講習会の実施などの防災対策に加え、不審者への対応に関する講習会などの防犯対策の強化が図られていることは評価できる。

施設設備の整備・活用等に関して、国際芸術センター青森において、小学生を対象とした創作体験活動が実施されており、この活動が、高校生等にも拡大していくことが期待する。こちらは、「が」とありますが、「を」ということで訂正させていただきたいと思っておりますのでお願いいたします。

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

資料1-1につきましては説明は以上でございます。引き続きお手元の資料の1-2公立大学法人青森公立大学平成30年度業務実績評価書（案）をご覧ください。こちらにつきましては、当評価委員会として作成する平成30年度の業務実績評価書の完成イメージとなっております。資料1-1で説明させていただきましたが、右側の欄で評価意見案として提示した内容をそのまま記載しておりますので、説明は省略させていただきます。その後につきましては、委員の皆様からの修正追加等の意見を反映いたしまして、調整してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。以上案件1についての説明を終わります。

- 委員長：ただいまの説明について、委員の皆様から、ご意見・ご質問はありませんか。
- 委員：資料1-2の9ページの最後のところの、下から2行目、「高校生等にも拡大していくことが期待する」は、「高校生等にも拡大していくことを期待する」となるということでしょうか。
- 市：はい、修正させていただきます。失礼いたしました。同様の言葉の訂正ということで、資料1-1の3ページの右側「経営・財務内容の改善及び効率化に関しては、外部研究費資金」と、「研究費資金」という言葉になっておりますが、費用の費はいりませんので、こちらの方、削除させていただきたいと思っております。同様に、8ページでございますが、8ページ。上の段の、「研究成果の地域への還元に関して、地域貢献

に係る研究費を促進する」となっておりますが、こちら「費」を取らせていただきたいと思ひます。すみません。同じページの3つ目のかたまりで、「県内との市町村との」とありますが、最初の「との」「県内との」「との」はありませぬので、こちらを削除させていただきたいと思ひます。

委員：個別項目の評価は、小数点以下は、評価書に掲載されないうですよね。平均点ではなく、あくまでも四捨五入ということになりますか。

市：そうなります。

委員：この評価の仕方はいつからこのようになっていたのでしょうか。

市：当初から、5段階評価しており、これまでの要領の運用上は、平均として四捨五入して繰り上がった場合は4、繰り下がった場合は3というところで、これまで、5段階評価とするために、そういう運用で、やってきたところだす。

委員：取りまとめの方法としてこういう形でやっているということについては、わかりましたが、本来であれば、皆が点数をつけ合った上で、5人で議論して、きちっと決めるべきなのではないかと思ひるところがあります。

市：今の、この点数の最終の出し方を決めているのが、この評価委員会が作った評価の基本方針というのに基づいて、今回、この評価をいただいたことになります。修正する場合は、次の評価のときに、評価の前に、こういった基本方針の見直しから提案させていただければと思ひます。

○委員長：この要領、評価の仕方がこういうルールですが、今回はこれで行くとして、評価の仕方については、評価した理由を議論する場があっても良いのではないかなと思ひます。次に、評価の仕方をまた検討する時があるでしょうから、その時に少しお考えいただくということで、よろしいでしょうか。また、字句の修正については、委員長と協議の上、行うということでよろしいでしょうか。

○委員長：皆さん、質疑がないようですので、お諮りいたします。案件1「公立大学法人青森公立大学平成30年度業務実績評価書」につきましては、原案のとおり決議することにご異議ございませぬか。

○委員：ありませぬ

○委員長：それでは、続きまして案件2の、「公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間(終了時見込)業務実績評価書」について説明をお願いします。

○市：それでは、案件2「公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間(終了時見込)業務実績評価」について説明させていただきます。お手元にお配りしております、資料2-1、公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間(終了時見込)業務実績評価についてご覧ください。評価方法につきましては、「公立大学法人青森公立大学中期目標期間終了時見込評価及び中期目標期間評価実施要領」に基づき、評価を実施していただいております。こちらにつきましても、平成30年度の業務実績評価と同様だすね、委員の皆様へ評価理由を明らかにしていただいたうえで、項目別評価として、5段階評価に加えまして、記述式による全体評価を、5名の委員の方全員に行っていただいたところだすございます。その結果につきましては、資料中ほどの評点数一覧となっておりまして、評点数につきましても、平成30年度の業務

実績と同様の集計結果をした結果、中期計画に掲げる7つの項目すべてにおいて、4点の中期目標を達成している。となったものでございます。次に2ページをご覧ください。こちらにつきましても、資料1-1の方でご説明申し上げました、30年度の業務実績と同様の資料のつくりとなっております。全体評価としましては、2ページから4ページまでに、1の総評、2業務の実施状況、3組織、業務運営等に係る改善事項等の順番に記載しております。以降5ページから10ページまでにつきまして、7つの項目別評価について記載しているということでございます。終了時見込み評価につきましては、平成30年度の業務実績評価と評価意見のコメントが重複している箇所が多いということでしたので、全文について読み上げることは省略させていただきますが、平成30年度の業務実績評価と比較しまして、記載されていない内容等を中心に確認のため読み上げさせていただきますので、委員の皆様におかれましては、ご確認のほどをお願い申し上げます。

それでは2ページでございます。前半部分に関しては、第2期の中期目標の前文からの抜粋なので省略させていただきます。総評につきましては、2項目あります。教育研究の質の向上に関する多くの取組が実施されていること、地域貢献においては、高大連携、地域の大学間連携に積極的に取り組むなど、地域を重視した活動が行われており、その取組内容が、認証評価機関による評価において、学生支援及び社会連携・社会貢献に関する項目が最上位のS評定を受けたことは高く評価できる。一つ飛ばしていただきまして、文部科学省が行った「国内大学のGPA（成績評価平均値）算定及び活用に係る実態の把握に関する調査研究」において、調査対象の国内757大学のうち、特に成果を挙げている7大学として公立大学では唯一選ばれたことは、高く評価できる。この2つでございます。

続きまして、3ページをご覧ください。2業務の実施状況につきましてですが、業務の実施状況につきましても、2項目です。2段落目の学生の受入に関して、首都圏でのサテライトオープンキャンパスの実施、模擬講義や学生等によるキャンパスツアーなどの実施などにより、入学定員の3倍程度の志願者が確保されている。

最後の段落でございますが、また、まちなカラボの事業検証を行い、体制及び機能整理、新規事業の実施を行うとともに、国際芸術センター青森において、小学生を対象とした創作体験活動を実施するほか、定期的に展覧会やワークショップを開催するなど、市民の施設利用の促進が図られており、その他の事項についても着実に実施されている。

続きまして4ページでございますが、こちらに関しましては、30年度の評価等と同内容でございますので、説明を省略させていただきます。

5ページをご覧ください。1教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）でございますが、これも2項目ございまして、学生の受入に関して、首都圏でのサテライトオープンキャンパスの実施、模擬講義や学生等によるキャンパスツアーなどの実施などにより、入学定員の3倍程度の志願者という目標を概ね達成したことは評価できる。

また、文部科学省が行った「国内大学のGPA（成績評価平均値）算定及び活用に係る実態の把握に関する調査研究」において、調査対象の国内757大学のうち、

特に成果を挙げている7大学として公立大学では唯一選ばれたことは、高く評価できる。以上でございます。

6ページをご覧ください。2教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置(研究)でございます。こちらは2項目ございまして、地域課題・国際課題の研究に取り組むため、地域連携センタープロジェクト事業を増加させたことや戦略的研究助成事業の見直し及び地域貢献活動推進制度を創設し、研究活動を促進していることは評価できる公開講座及び海外研究者を招へいした研究会の開催回数、受講者数の増加など、着実に業務実績の進捗していることは評価できる。

7ページをご覧ください。2項目でございますが、3教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置(地域貢献)としまして、地域連携の強化に関して、地域貢献活動として、学生が主体となり実施している「まるっとよいどころ祭り」など、県内市町村とも連携を図りながら、地域課題の解決に取り組んでいることは評価できる。

8ページをご覧ください。4業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置でございますが、こちら30年度の業務実績評価と同内容でございますので、読み上げることは省略させていただきます。

9ページをご覧ください。上の段の、5経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置でございます。こちらについても、業務実績評価と同内容でございますので、読み上げることは省略します。下の段の6自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置でございます。こちらは1項目でございますが、評価の充実に関して、認証評価機関による評価において、学生支援及び社会連携・社会貢献に関する項目が最上位のS評定を受けたことは評価できる。

10ページをご覧ください。7その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置でございます。こちらについても、年度評価と同内容でございますので、読み上げることは省略させていただきます。

以上、資料の2-1について説明は以上でございます。

引き続き資料の2-2をご覧ください。こちらは、公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間(終了時見込)業務実績評価書(案)でございます。こちらが、評価書としての完成イメージとなっておりますが、こちらにつきましても、資料の1-1同様、2-1に記載している右側の評価意見と、委員の皆様からの評価意見の内容をそのまま記載しているという状況となっております。委員の皆様から修正追加等の意見を反映いたしまして調整してまいりたいと思いますので、お願い申し上げます。案件2についての説明は以上でございます。

○委員長：ただいまの説明について、委員の皆様から、ご意見・ご質問はありませんか。

○委員：資料の2-1の9ページですが、6自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置について、評価の充実に関してとありますが、この評価の充実っていうのは、何を意味していますか。

- 市：中期計画の本文にある文章に、評価の充実に関して書いておまして、そちらを引用し作成したのですが、表現上ずれるところがあれば、この場で修正させていただきたいと思います。よろしければ削除ということでしょうか。
- 委員：はい
- 委員：評価の表現として、見込なのですが、「達成している」となっているがこの表現については。
- 市：要領に関しては、いろいろと、他の大学さんの書きぶりも参考にしました。4点のところに関しては、中期目標を達成しているとの表現を他大学で使用していましたので、その言葉を使わせていただいたというところでございます。
- 委員：実際にやってみると、評価として盛り込めないニュアンスがあります。
- 市：資料2-2の1ページの5段階評価のこの後ろに、「中期目標期間終了時見込評価」という言葉を付け足すことによって、わかりやすくなるのではないかと思いますでしょうか。
- 委員長：評価委員会としては、そのような表現でお伝えしたいと思いますが、事務側としてはそのようにご理解いただいて、文言を直した方がよろしいということで、どうでしょうか。はい、他にございませんか。
- 委員：5ページの評価、「中期目標達成している」、中期目標の後ろに「を」を入れる。
- 市：修正します。
- 委員：資料2-2の7ページの4について、4の業務運営の改善及び効率化に関する目標のこれで、4つの文があって、2つが「求める」で終わっていて、評価できるが1つとなっている。それで結果が、達成しているっていうのが、ちょっと違和感があります。
- 委員：3段落目、「その他の事項についても」というとつながらないような気がします。「も」ではなく、「は」の方がいいと思います。
- 委員：「試行したことは評価できるが、その試行結果を踏まえて」の部分も、「が」を取って、「試行したことは評価できる」なお、と続けたほうがよろしいかと思います。
- 委員：また、その他の事項についてとはどのような内容なのか。
- 市：評価書のつくりとしては、大学からの実績報告をベースにしていますが、そこにある記載事項としては、大学として内部研修の実施であったり、公立大学協会等が実施している外部研修等への参加や毎年各大学で基本的に実施されているFD及びSD研修といったものを実施しているということであったり、業務マニュアルを作成し、見直しを図りながら、事務局内の構成及び事務の質・量の検証を行うなどの、スクラップアンドビルドを行っているなどになります。これらの点に関しては、評価委員会としては特段取り上げるほどではないけれども、実質としてはやっているという、そのような評価書としてのつくりにはなっています。
- 委員：了解しました
- 委員長：確認しますが、資料2-2の7ページの4については、最初の上段のところ、「評価できる」「が」を外す。「が」の代わりに「。」を入れる。そのあと、「なお、その試行結果を踏まえて」ということにして、それから最終段落のところでは、「その他の事項についても」を「は」に直す。ということで、よろしいですか。

○委員長：皆さん、ほかになければ、お諮りいたします。案件2「公立大学法人青森公立大学第2期中期目標期間（終了時見込）業務実績評価書（案）」につきましては、原案のとおり決議することにご異議ございませんか。

○委員：ありません。

○委員長：これで今日の委員会を閉会いたします。委員の皆様、大変ありがとうございました。それでは、進行をお返しします。

○市：皆様ありがとうございました。本日の2つの案件につきましては、本日の審議結果を踏まえ、企画調整課で修正の上、委員長に確認をした後、委員の皆様へ送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして、第2回青森市地方独立行政法人評価委員会を終わります。本日は誠にありがとうございました。